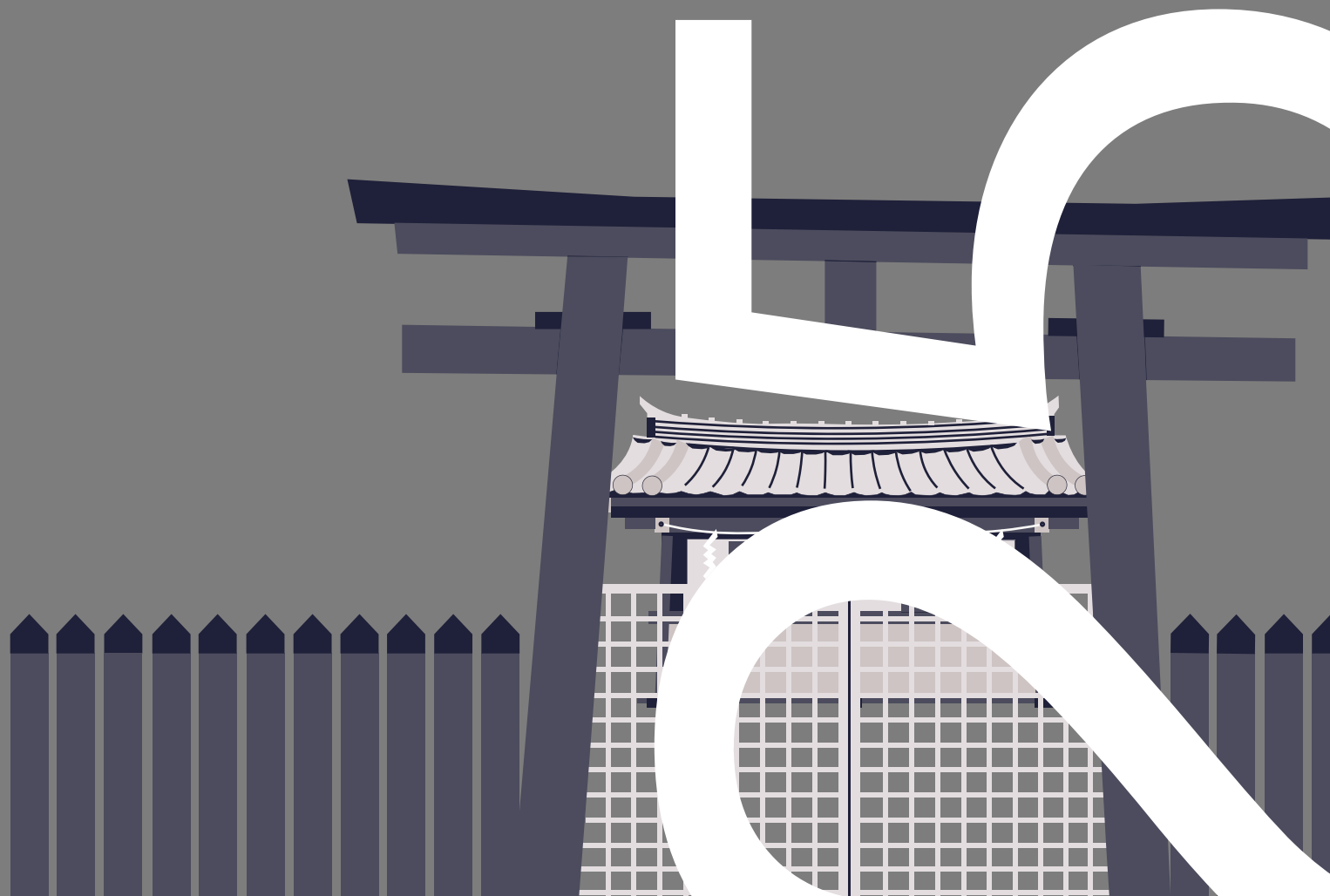


インターカレッジフォーラム2025 in 奈良きたまち



目次

「インターカレッジフォーラム in 奈良きたまち」とは？	2
主催／協力団体紹介	3
スケジュール	4
成果	8
きたまち探検隊（奈良学園大学）	
見つけて、伝えて、笑顔いっぱい！	
「ならきたまち★たんけんすごろく」	
チームやすまる君（帝塚山大学）	10
奈良きたまちの魅力認知度 UP	
～新しい地域資源の活用と情報発信～	
くるくるとしゅカー応援隊（同志社女子大学）	12
本でつなぐきたまちの子育て	
「くるくるとしゅカーがきたまちを回ります」	
畿央大学 B 班（畿央大学）	14
きたまちからならにおいしいを	
あきち いとぐち きたまち（奈良県立大学）	16
きたまちにおける空き地のポテンシャルを考える	
OUE n ならきた（おうえんならきた）（大阪経済大学）	18
歴史と出会うロゲイニング in きたまち	
畿央大学 A 班（畿央大学）	20
きたまちの伝統行事を未来につなぐ新たな仕組みづくり	
奈良教育大学 社会科教育・澁谷研究室（奈良教育大学）	22
「歴史のモザイク」をめぐるきたまち謎解きゲーム	
ぷぷファーム（同志社女子大学）	24
べじ・ぷ～ぷサイクル	
成果発表会・交流会	26
審査・総評	28
地域・教員からひとこと	30
謝辞	32
参加者一覧	34

「インターカレッジフォーラム in 奈良きたまち」とは？

「インターカレッジフォーラム in 奈良きたまち」は、奈良市の旧市街地である奈良町の近鉄奈良駅以北「奈良きたまちエリア」を対象に、奈良町近郊の大学生が地域の支援を得て、さまざまなテーマで地域課題に取り組むプログラムです。

大学、地域のまちづくり団体、奈良市が協働して実施する民学官連携プログラムで、学生は授業やゼミ単位で約4か月にわたって取り組み、地域のまちづくり団体や住民の協力を得ながらまとめた成果を発表します。

＜「インターカレッジフォーラム in 奈良きたまち」の特徴＞

- ① 各大学が授業等で取り組む、継続性のあるプログラムです。
- ② 複数の大学が参画することで多角的な視点を地域に提供できます。
- ③ 複数の大学が交流することで学生や教員が刺激を受け合っています。
- ④ 大学と地域のまちづくり団体が連携し取り組み、さらに行政がサポートすることで、それぞれが得意とする役割を担い事業を実現しています。

いま、大学生に求められるもの

地域の課題を読み取り課題解決案を主体的に考える力は、仕事や日常生活のなかでも求められるスキルとして、昨今、大学教育においても重視されています。大学の教室から地域に出て、地域の人とコミュニケーションを取りながら地域を見つめて課題を抽出・分析し、目指す成果をわかりやすくまとめてプレゼンテーションする、これらの力は、学生が実社会に出た際に大いに役立つ力となります。

いま、地域が求めるもの

人口減少、少子高齢化、地域経済の縮小など、現代の日本はさまざまな課題を抱えています。これらの課題は地域の日常生活にもいろんな形で影響しています。課題をすぐに解決することは難しいかもしれません。しかし、学生が発見した課題やそれを解決する発想が地域に新たな気付きを与えてくれることを期待しています。

なべかつ／鍋屋連絡所の保存・活用と

“奈良きたまち”のまちづくりを考える会

旧鍋屋交番きたまち案内所の管理・運営とあわせて、奈良きたまちの調査や良さを広く伝えていく取組を行っています。

てんかつ

／転害門前旧銀行建物活用協議会

転害門横の旧南都銀行の建物を活用した奈良市きたまち転害門観光案内所をボランティアで運営、管理しています。

きたまちコンセント

奈良きたまちの店舗や団体、施設等をネットワークし、MAPの発行、マーケットの企画などの活動をしています。

大学

2025年は大阪経済大学、畿央大学、帝塚山大学、同志社女子大学生生活科学部人間生活学科都市計画研究室、奈良学園大学、奈良教育大学、奈良県立大学が参加しています。

奈良市

奈良市は、新奈良町にぎわい構想を平成29年に策定し、奈良町の歴史・文化を基盤に、地域のまちづくり活動を原動力とし、生活、観光、生業をつくりだすことを目指して、奈良町に関わる人々と協働したさまざまな取組を行っています。その一環として、アクションプランVer.2に奈良町エリアでの民学官連携による学際プロジェクトを位置づけ、「インターカレッジフォーラムin奈良きたまち」を支援しています。



2025年4月19日（土）9:45～15:00／オリエンテーション・まち歩き

奈良県立大学コモンズ棟のイベントスペースで、オリエンテーションが行われました。学生たちはガイダンスときたまちの解説を聞いた後、本プログラムに参加した意気込みなどを交え話し合いました。午後からは、5つのグループに分かれ、まちづくり団体の案内人が、会所、長屋、歴史、伝統文化、川、暗渠、路地などをテーマにしたコースを案内しながら、きたまちの魅力と現状について説明しました。





2025年4月下旬～6月上旬／

各大学での授業・現地調査・ヒアリング

地域の課題を読み取り、まち歩きが終わったら、それぞれの大学の授業とゼミで情報を共有。興味のある内容について議論を重ね、アイデアを出し合いました。地域課題を深掘りするために、地域の人や市の関係課に協力を得ながら、ヒアリング、データ収集、アンケート調査等を実施しました。



2025年6月14日（土）13:00～16:00／中間発表

オリエンテーションから成果発表会までの中間にあたる6月に、オンラインで中間発表会を行いました。学生は、自宅や大学から個人やグループで参加し、現時点の提案をまとめて発表しました。地域の人、大学の教員、市職員から様々な質問やアドバイスがありました。学生たちは、成果発表会に向けて新しい気づきを得ることができました。



2025年6月中旬～8月上旬／各大学での授業・現地調査・ヒアリング

中間発表を終えた学生たちは、提案を深めるために再び地域に足を運び、不足している情報の調査やヒアリングを行いました。成果発表会の直前まで時間をかけて準備を重ね、ひたむきに地域課題と向き合いました。





見つけて、伝えて、笑顔いっぱい！ 「ならきたまち★たんけんすごろく」

きたまち探検隊（奈良学園大学）

阪本侑亮 矢川幸司郎 中川由愛 蔵根由来 杉原一羽 石井綾菜

1. はじめに

- ・奈良きたまちには、歴史的な建造物や文化財、地元の 商店や暮らしなど、子どもたちにとって魅力的な地域資源が数多く存在している。
しかし、日常生活の中で、地域について知る機会やそれらに親しむ手立てをもつことは誰にとっても難しいことかもしれない。
- ・そこで、私たちは、子どもたちが遊びを通して「ならきたまち」を楽しく学べる教材として、「ならきたまち★たんけんすごろく」を制作する企画を提案する。

2. 提案テーマと内容

提案テーマ：みつけて、つたえて、えがおいっぱい！

ー「ならきたまち★たんけんすごろく」



提案内容：

- ①奈良きたまちにある地域資源をもとに、「すごろく」を制作する。
- ②子ども（園児や小学校低学年児童）を対象とし、地域理解教育に役立つ教育教材を制作する。
- ③制作後、公民館や学校園にて、すごろく大会を実施し、遊びを通して「ならきたまち」の魅力を伝える。

本提案を考えるに至った経緯：

- ①子どもたちが地域を**楽しみながら学べる機会**をつくりたいという思いがある。
「楽しい！」と思えることが、何事に対しても興味をもつきっかけになると思います。また、他者との交流を大切にしたい取り組みをつくりたいと考えました。
- ②教育学部として、専門性を活かした教材づくりに挑戦してみたい。
- ③地域理解教育への発展的な活用を目指したい。

3. 「すごろく」の教育教材としての価値

- 1) 遊びを通した主体的な学びを促すことができる（サイコロを振る、マスを進む、指示に従う、等）
- 2) 共同的な学びとコミュニケーション力を育むことができる（順番を待つ、ルールを守る、応援する、等）
- 3) 地域や学習内容との関連付けが可能な柔軟性がある（教科や領域と結びつけた学びが可能）

4. 「ならきたまち★たんけんすごろく」の概要と制作過程

制作目的：①子どもたちが遊びながら地域の名所・文化・人々に親しむ。

②地域の歴史や文化を、楽しく他者とのかかわりを持ちながら学ぶ。

③地域のつながりや、まちを大切に思う心（郷土愛）を育む。

④学校・家庭・地域が連携した「地域理解教育」や学校教育の一環として活用できる教材にする。



4-5月 ならきたまちの地図制作

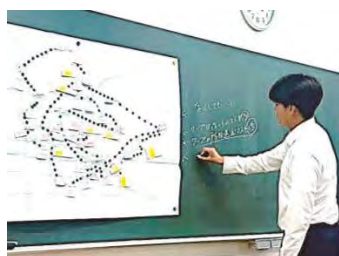


6月 すごろくの仕組みづくり



他者とのかかわりを生み出す仕組みとして、「あかどうじに会いました。あかどうじと一緒にポーズをしてみよう」「翁舞をみた。自分なりの踊りを踊ってみよう」「かわじとしあきらさんと出会った。自分の紹介をしてみよう」「大仏様の迫力に圧倒された。みんなで大仏様のポーズをしよう！」などである。

7月 すごろくの仕組みづくり



8月 完成



1. 奈良きたまちの課題(フィールドワークを通して)

- 地域に住む方や訪れる方が“ちょっと座る場所”ベンチやいすが少ない
- 地域資源は多いが、“情報発信力”が課題

私たちが考える新しい「奈良きたまち」の魅力

住民に
やさしい町

訪れる人に
やさしい町

コミュニティが
生まれる町

きたまちに暮らす人、訪れる人にとって、安心・快適な
環境づくりが新しい魅力になるのではないかな？

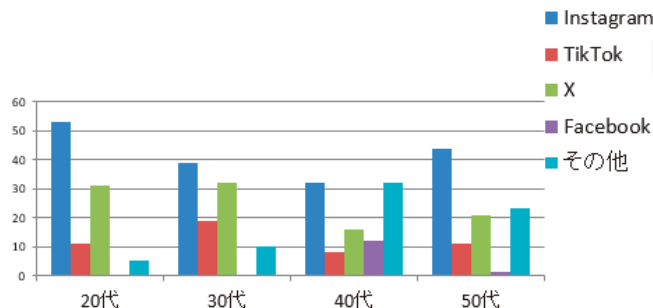
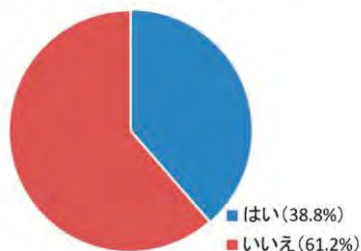
▶ 他地域のベンチプロジェクトの先行事例

- ・京都市伏見区「とまり木研究所・お出かけ協働ベンチプロジェクト」
- ・神奈川県大根地区「みんなのベンチプロジェクト」
- ・福岡県福岡市「おさるのベンチプロジェクト」
- ・【大迫高×総探】「大迫アクティベートプロジェクト・ベンチプロジェクト班」

▶ 奈良きたまちの認知度とSNS利用調査

対象：学生・教職員 80名

奈良きたまちを知っていますか？



町の様子



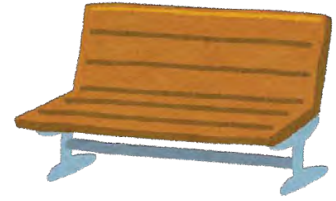
SNSについて聞き取り調査



きたまちで見つけたベンチ

2. 私たちの提案

- ①町にベンチ きたまち「やすまる君」を増やす
誰もが立ち寄りたくなるまちづくり
- ②認知度Upのために、地域資源を“見える化”して発信
SNSでの共有や共感の輪を広げる



＜提案①＞ きたまち「やすまる君」プロジェクト

- “ちょっと座る場所”として、ベンチ・イスを、きたまち「やすまる君」と名付け設置していく。
第1号は、帝塚山大学学生制作の「鹿のベンチ」
- ベンチ・椅子の入手方法
小中学校廃校や家庭からの椅子活用・補助金活用
ベンチ制作イベントの開催など
- 設置場所の提案
街区公園・書店・きたまちまちかど博物館・バス停・公民館など



帝塚山大学
居住空間デザイン学科
(HPより)

＜提案②＞「奈良きたまち」の認知度Upのために

伝える内容と伝え方の工夫で“届く発信”を

- Facebookだけでなく、Instagram中心の発信が今の時代に合っている。
- 「観光地にしたいくない」という地元の思いを大切に、暮らしの風景ややさしい空気感を伝える。
- 若い世代の得意分野であるSNSを活かし、地元とつながりながら発信をサポートする。



SNS活用例

3. まとめ

まち中に、きたまち「やすまる君」を設置し、増やしていくことで、

- ☆暮らす人や訪れる人にやさしい町になる！
- ☆コミュニティが生まれる町になる！
- ☆歩くことが増えて、地域の方が元気でいられる町になる！
- ☆SNSを通して認知度が上がり、共感の輪が広がる！



本でつながきたまちの子育て

「くるくるとしよカーがきたまちを回ります」

くるくるとしよカー応援隊（同志社女子大学）

稲田響 北野海月 森萌々美 室田あかね 須藤仁子

1. テーマ

子育て世帯をターゲットに、くらしやすい町にしていくための新しい仕組みの提案

2. 子育て世帯にとって暮らしやすいまちとは？

行政へのヒアリング



子ども未来課
放課後児童育成課
秘書広報課

子育て支援について

- 子育てを機に奈良市へ転入・移住する30代が多くみられる
(子育てサポートが手厚く、お試し移住支援制度もあり)
- 奈良市への移住は多くみられるが、きたまちにはあまり転入者がいない

こどもの居場所について

- 生徒の数は減少していても、共働きによってバンビーホーム(学童)の利用者は増加している
- 室内だけでなく屋外での遊び場も必要とされているが、人員不足のため対応が難しい

共働き世帯へのヒアリング



家族 A

- 移住(転勤)
- 夫婦と子供(中2、小6)
- 夫:在宅 妻:時短勤務
- 買い物は基本車 ●休日は習い事
- クラブやママ友のコミュニティ

家族 B

- 移住
- 夫婦と子供(1歳、4歳)
- 夫:フルタイム 妻:時短、通勤
- 買い物は基本車
- 休日は車で大きめの公園
(ついでに買い物も済ませる)
- 近所の子育て世代と交流

家族 C

- 地元住民(Uターン)
- 夫婦と子供(3歳)
- 夫婦:半分出社、半分为在宅
- 買い物は近鉄駅周辺(車無し)
- 休日は奈良女子大の敷地やバス
ターミナルの広場で遊ばせる
- 助産院友達
- 親子で楽しめる場所があれば！

子育て環境についての想い



- スーパーがなくなり、小学校も減少し、子どもの遊んでいる声がなかなか聴けない・・・
- 北部エリアと奈良駅周辺との差を感じる
- もう少しつながるきっかけや場所があれば・・・

「親子で交流できる場所」

「子どもの遊び場」

「地域のつながり」

の3つの観点が重要！

3. 提案

きたまちエリアを車で回って、
本を回収したり交換できる
くるくるとしょカー



なぜ移動するのか？

- さまざまな場所で行うことができる
→利用者が訪れやすい
- くるくるとしょカーを介して、
普段あまり関わりのない他の
地域の人とも交流できる

なぜ本なのか？

- 若者から高齢者まで誰でも本を持
っているため、幅広い世代が
利用できる
- 本屋さんが多く、大門玉手箱が
開催されたりなど、本との関わり
が多いことが特徴

参加方法



①くるくるとしょカーが来た
公園に行こう！



②もう読まなくなった本をくるくるとしょ
カーに提供。チケットと交換します！



③ゲットしたチケットと
自分の読みたい本を交換

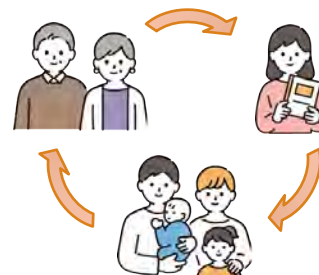
※場所：公園、広場、空き地（トライアルサウンディングの制度も活用）
※頻度：毎週末

いろいろな本に触れられたり、集
まった他の地域の人たちとの交流
機会を提供します

きたまちはスーパーは少ないけれど、隠れ家的なこだわりのあるお店が多く存在
→本と一緒にきたまちのお店の商品を持って地域をまわり、地域の方にも、新しく
移住してきた方にもきたまちの魅力を届けます。

4. メリット

1. 幅広い年齢層との交流ができる
 - ・子供向けの本に限らないため、親子で楽しめる
 - ・子供から高齢者がお互いに支え合えるコミュニティ作りができる
2. 地元の魅力の発見に繋がる
 - ・移住者にとっては新たな発見、地元民にとっては再発見
→きたまちに対する誇りや愛着が深まる
 - ・巡回することで色々な場所を知るきっかけになる
3. 忙しい共働き世帯にも利用しやすい
 - ・期日までに本を返す必要がない
→時間に追われず好きなタイミングで利用出来る



「人」と「本」が巡る町へ
小さな交流からきたまちの未来を作ろう！

01

きたまちの現状とまち歩きでの気づき

生活拠点

小売店が少ない

観光地

奈良の訪問客を活か
せていない

⇒ 生活拠点における

買い物の課題と ⇒

観光が調和し共生

する仕組みに着目

きたまち版
ファーマーズマーケット開催



02

「ならつなぐ市」開催のメリット

住民

- 奈良の農家や生産者から新鮮な野菜や加工品を直接購入できる場が生まれる
- 奈良の食材を身近に利用できることで生活の質が向上
- 生産者と交流できる

観光客

- これまで触れる機会の少なかった奈良全域の特産物に触れる
- 直接、地元の方と話ができる機会を持つことができる。
- 奈良全体の観光スポットや新たな魅力を知るきっかけになる

03

過去の地域の経験を糧に改良型のイベントの提案

大門青空市
転害市



- ◆ 実質的効果の欠如
- ◆ 費用対効果の不均衡
- ◆ 運営負担の過重
- ◆ 内部の意見対立

- ◆ 効果の見える化
- ◆ 運営費の確保
- ◆ 多様な主体による協働
- ◆ 方向性の共有

04

運営方法

SCHEDULE

第一回実施までの
スケジュール

第一回運営会議
(上旬)
第二回運営会議
(中旬)

事業内容の説明・1年間の
計画
動き出し・周知・出展者募
集開始

2026.
March

April

May

June

July

運営組織結成
住民主体の運営を
目指す！メンバー募集
(SNS等)

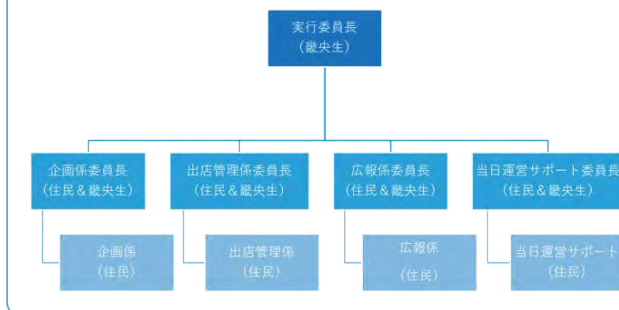
第三回運営会議
(中旬)
出展者確定・広報
拡大

第四回運営会議
(中旬)
最終確認・現場設計・
設営準備

第五回運営会議
(中旬)
開催概要の共有と確認
(最終調整)

第一回実施！

組織図案



POINT

転害門で奈良の
魅力を発見

きたまちから奈良の
魅力を発信！

1. 背景と課題

全国で空き地・空き家が増加している中、きたまちは街並みが整っているのに、
空き地・空き家も資源の一つ

⇒景観を整え、空き地に役割を与えることで、人がいないという問題を解決する
「いとぐち」を作る

2. 調査方法

〈対象地域：奈良きたまち中心部〉

- ・地図調査
- ・現地調査
- ・ヒアリング（奈良市役所、倉本さん）

空き地・駐車場に関する調査項目

調査の目的：この調査は、空き地・駐車場の現状を把握し、そのポテンシャルを調査することです。

この調査は、調査員が現場で実施するものです。調査員は、調査対象地域の空き地・駐車場を調査し、その状況を調査員が把握します。

※調査員は、調査対象地域の空き地・駐車場を調査し、その状況を調査員が把握します。

1. 調査対象地域の空き地・駐車場の状況（①）

調査員が把握する状況は、以下の通りです。

2. 調査員が把握する状況（②）

調査員が把握する状況は、以下の通りです。

3. 調査員が把握する状況（③）

調査員が把握する状況は、以下の通りです。

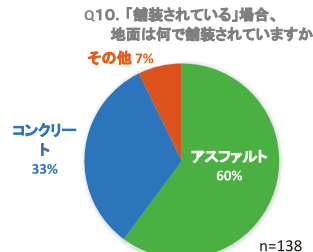
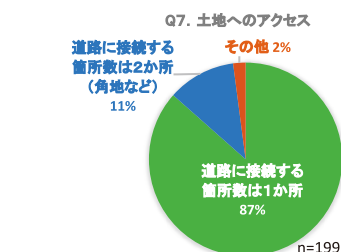
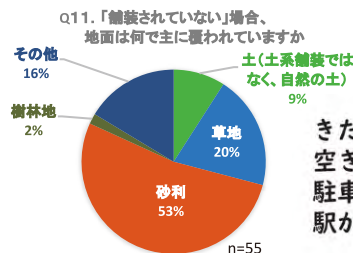
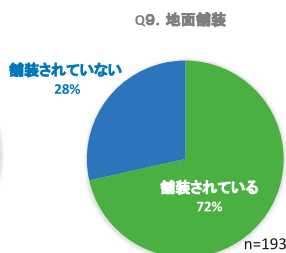
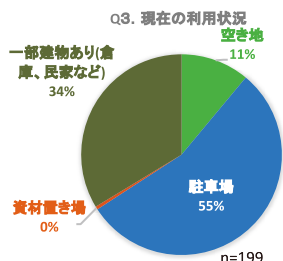
4. 調査員が把握する状況（④）

調査員が把握する状況は、以下の通りです。



現地調査で使用した調査フォーム（部分抜粋）

3. 調査結果と結果分析（部分抜粋）



きたまち
空き地と
駐車場
駅からの距離

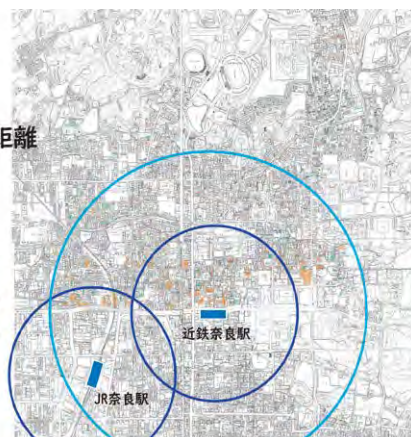
凡例

■ 駐車場

■ 空き地

○ 500m

○ 1000m



【調査結果のまとめ】

- ・ **地図調査** 駅からの距離が遠くなるにつれて
空き地・空き家の数が増加する
- ・ **現地調査** 駐車場への転用が目立つ（既に十分）
総じて未舗装が少なく、砂利が敷かれるなど
持ち主の方が管理されているケースが多い
- ・ **ヒアリング（奈良市）** 空き家対策は様々行っているが、
ヒアリング（倉本さん） 空き地対策はまだこれから
生活のための利活用の可能性



【空き家→空き地のメカニズム】



4. 今後の展望（短期・中期・長期）

さらに住民の需要にあった利活用に向けて・・・緑いっぱいのきたまち



〈短期〉草花を植える
簡易屋台など、イベント
開催地としての活用



〈中期〉休憩所や待合
所を作ること、一息
つける場所に



〈後期〉緑豊かな区画を作る
設備を整えて、公園やドッグ
ランを設置



歴史と出会うロゲイニング in きたまち

OUE nならきた（おうえんならきた）（大阪経済大学）
田川晴奈 濱川拓都 山本晃申 多鹿優里 田畑快人

01 きたまちを実際に訪れて感じたこと

プラスなイメージ

- ・静かで落ち着いている
- ・ならまちと違いリフレッシュできる
- ・歴史遺産がありまちあるきに最適◎



マイナスなイメージ

- ・歴史ある建物がマンションなどに建て替え
- ・子ども会がなくなり、小さなコミュニティへ
- ・コロナによる祭りの縮小化・後継者問題



02 問題意識

- ・伝統行事をどう引き継ぐか
- ・地域のつながりを持ち続けるためには
- ・きたまちの魅力をどう伝えるか

03 テーマ

祭りの活性化×ロゲイニング

04 ロゲイニングとは？

？設定されたチェックポイントをできるだけ多く周って写真撮影し、

その得点を競うまちあるき型スポーツ！

👍 配布する地図と自身のスマートフォンのみで参加できる

👍 まちあるきにより新たな魅力が発見できる



05 イベントの目的と効果

まちあるきによる
歴史的魅力的再発見

既存の祭りとの
組み合わせで
継続的なイベントに

住民の地域行事参加率
の向上・新たな定住者
の増加につなげる

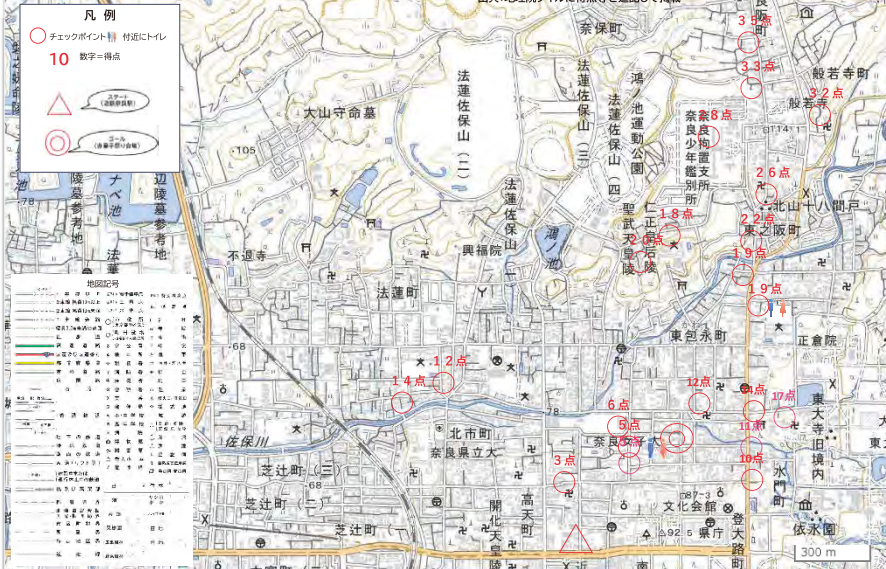
06 今後の展望

イベント中に異なるチーム同士の交流の場を設け、参加者同士のつながりを強化したい

実施イメージ

第1回 ならきたまちロゲイニングマップ

出典:地理院タイルに得点等を追記して掲載



イメージ

イベント概要

日付:7月第2土日

場所:奈良きたまち

ルール

乗り物の使用禁止・安全面により

子供のみの参加はNGなど

ロゲイニングの流れ

- ①近鉄奈良駅からスタート!
- ②下記のチェックポイントにあるスポットを好きな順番で周る
- ③最終ゴール地点は**赤童子祭り会場**!
- ④写真を撮ったスポットの点数を合計して**結果発表**!お疲れさまでした🌸



Point

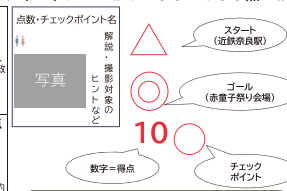
- ①**歴史的遺産**を中心とした
チェックポイントの設定
(転害門、旧奈良監獄など)
- ②**得点**の設定
→近鉄奈良駅からの
距離をもとに設定
- ③**ボーナスポイント**の設定
きたまちの飲食店で飲食し
写真を撮れば+10点
→暑さ対策の休憩を促し、
地域活性化にもつなげる

イメージ

きたまちロゲイニング チェックポイント一覧

【旧奈良監獄】28点 明治41年に完成した刑シラガの形跡所、五角形配置の珍しい構造。現存する最古の近代建築。国の重要文化財にも指定された。	【南都の石橋】22点 奈良時代から江戸時代にかけて築かれた歴史ある石橋。寺社境内や街道にあり、古都の風情を今に伝えている。	【轟橋】11点 南都八景の1つ。八景で唯一一般人が主役の風景。旅人の足踏や荷物を引く音が轟々としたので「轟の橋」と呼ばれている。	【多聞城跡】18点 奈良市立若草中学校の敷地にあった永久系、松永久通、瑞春の城跡となった日本の城(平山城)。
【武田俊男商店】35点 大正時代から続く鹿せんべいの製造所。現在、奈良市内には5つの製造所があるが、最も歴史が深い。	【念聲寺】12点 浄土宗のお寺。元禄年間に創建されたが、1704年に大火のため消失した。残ったのが今の地蔵堂に安置されている厚肉彫りの基壇地蔵尊。	【八坂神社祇園社】14点 多くより供養されている神像として信仰を集めている。夏に例大祭が行われ地元の人々に大切にされている。	【大仏鐵道遺跡】12点 明治時代の鉄道会社(大仏鐵道)の遺跡。奈良の加茂川を渡る約10kmの路線の架橋。
【植村牧場】33点 明治16年に創業され、奈良でも古くから、地産の牛乳や新鮮な牛乳や自家製ソフトクリームが人気。	【東大寺戒壇堂】17点 東大寺の境内にある歴史的建造物で僧侶の戒壇として、奈良時代に創建された。日本最大級の戒壇堂。	【奈良女子大学記念館】6点 旧奈良女子高等師範学校本館として、奈良時代に創建された。現在は国の重要文化財に指定。	【佐保せせらぎの里】14点 佐保川沿いにあり小さな池や飛び石があり、昔も子どもたちが大冒険として楽しんでいた。
【夕日地蔵】26点 1509年に建立された。約2.4mにもあがり、地蔵の光背を西向きに立て、西日を浴びれば、きれいに映えるのでは。	【向出醬油醸造元】20点 明治12年創業の奈良の醤油醸造元。内閣府の手作りの醤油を製造し、発酵可能。	【初宮神社】4点 今から1200年前奈良に都があった。宮中で神祇官の祀っていた八咫神。	【崇徳寺】3点 慶長8年、徳川家康が奈良に参内した際、大仏殿を大修理した。
【奈良豆比古神社】40点 光仁天皇の父基基子(孝徳天皇)を祀る古社。神像は国指定有形民俗文化財。境内には天然記念物の樹の巨木がある。	【東大寺転害門】19点 国宝。三門一戸八開の形をとり、堂々とした門で創建を想像できる。	【なべかつ】5点 奈良県警署旧職員連絡所が閉鎖された後、旧職員交差点から奈良時代の天皇や皇族の遺物が数多く出土。	【聖武天皇陵・光明皇后陵】19点 多門城跡のすぐ西隣。この佐保山一帯は元明・室町・天保・文政と奈良時代の天皇や皇族の陵が数多く出土。
【般若寺(楼門)】32点 飛鳥時代に創建された奈良の古寺で、国宝「十三尊石室」が所蔵されている。	【雲井坂】10点 南都八景の一つ。法隆寺の境内にあり、法隆寺の境内にあり、法隆寺の境内にあり。	【雲井坂】10点 南都八景の一つ。法隆寺の境内にあり、法隆寺の境内にあり、法隆寺の境内にあり。	【雲井坂】10点 南都八景の一つ。法隆寺の境内にあり、法隆寺の境内にあり、法隆寺の境内にあり。

スタート 11:00 | 合計
フィニッシュ 14:00 | 400点+α



本大会の移動は、「歩く」のみで、
乗り物の利用できません

- ①地図が渡されたら作戦を練りスタート!
- ②チームは全員一緒に、チェックポイントを回ります。
- ③撮影者以外のメンバーを入れて一緒に写真撮影しましょう
- ④次のチェックポイントへ...
- ⑤時間内にフィニッシュ
- ⑥時計を撮影し、写っている時刻をフィニッシュ時刻とします。】
- ⑦時刻は秒切り上げ1分ごとに減点です。
- ⑧スタッフが用紙に結果を記入し提出します。
- ⑨10分以上遅刻・リタイア時は、緊急連絡先へご連絡ください。

- ▲地図に書かれた道を通り、道以外には立ち入らないでください。(公園などの道外に迷ってもいい場所あり)
- ▲地図で立ち入り禁止と書かれていないでも、現地で通行禁止となっている場所は通りないうでください。
- ▲本大会は地域の協力で行われるイベントですが、エリアは狭小なため、交通ルールを守り、ゴミを捨てない、騒音(大声の歓声や叫び)をしない、特に仏壇の境内や家の敷地内など、迷惑行為は厳禁です。マナーを守って楽しく参加しましょう
- ▲安全のため、各チームは必ず18歳以上の大人を含め参加してください。

遅刻は1分につき-50点
(30分オーバーで失格) | 緊急連絡先
09000000000(担当)

写真等:奈良市、奈良県協会、般若寺、奈良きたまちホームページ

1 まち歩きでの気づき

少子高齢化の加速
 →伝統の後継者の不足

少子高齢化の影響で、屋台が並び多くの人で賑わった風景は今や見られず、神事などが関係者だけによって細々と執り行われている現状を伺い、少し寂しさを覚えた。
 現在、氏子として祭りや伝統行事に携わる世代が高齢化しており、次世代への継承が急務であることの説明を受けた。

「講」と「氏子」の存在

きたまちの多くは「氏子町」となっておりそれぞれの地域に信仰する神様、「氏神様」がおられる。そこで氏子の方々が中心となり、神事や祭りの運営、さらにはその維持、継続のために日々活動されているということだった。
 こうした地域組織の存在が、長い間 伝統文化を支え、守り続けてきたことを改めて感じた。しかし、これらの組織も少子高齢化や後継者不足といった課題に直面しており、今後どのようにして次世代へと継承していくのかが重要なテーマとなっている。



伝統行事は地域の宝！！
未来に残していく必要がある！！

講・氏子が集まらない理由の仮説

なぜ講・氏子として活動する人が少ないのか？

わからないから
 参加できない？

宗教信仰の兼ね合い？

既存の地域コミュニティに
 入るのは勇気がいる？

めんどくさい？



2 課題



氏子についてまとめたチラシを作成し、氏子について周知してもらおう

氏子としての活動内容、会費、地域の祭りの現状や氏子・講についての概要を記載。お洒落なデザインとわかりやすく簡潔な文書に祭りの魅力が伝わる写真を添付する。

制作内容

表

裏

タイトルを大きく目立つように

お祭りの雰囲気が伝わる写真



うじこのあいうえお
作文で分かりやすく

目に入りやすい
位置に日付を

氏子・講の特権

お祭りの起源
を簡単に



氏子・講の説明

氏子の主な活動

チラシをつくることでの効果

- ★ 氏子の現状を地域の人に知ってもらえる
- ★ 氏子について理解してもらえる
- ★ これまで氏子の存在や地域の祭りに興味がなかった人の関心を集められる
- ★ わかりやすいレイアウトで活字の多い資料を読むのが億劫だと思って
いる人にも読んでもらえる





「歴史のモザイク」をめぐるきたまち謎解きゲーム

奈良教育大学 社会科教育・澁谷研究室（奈良教育大学）

苦篠一輝 池本翔真 荻野耀介 河合悠真 木津史晴 北島美月 末廣克基 深井瞭

1. きたまちに今必要なことは？

下山（大阪経済大学;2021.8）「きたまちアンケート調査結果報告書」

<https://www.city.nara.lg.jp/uploaded/attachment/133403.pdf>

下山（2021）がきたまちの居住者などを対象に実施したアンケートの結果を分析すると…

まちの魅力をまちの外の
人にもっと広めたい

×

まちの住みやすさ
を維持したい

「歴史的価値のある場所が多い」というまちの魅力を知ってもらうためには多くの人に実際に訪れてもらうことが良いが、あまり多くの人が訪れると、「オーバーツーリズム」につながり、まちの住みやすさが損なわれる可能性がある。

きたまち本来の姿や生活を損なうことなく、
魅力を共有する方法を模索する必要がある！

上手くマッチするのでは…？

2. わたしたちが考える解決策

こどももおとなも
世の中は隠れた謎解きブーム！

“リアル謎解きゲーム”

を企画して開催する！

物語の主人公になりきって
まちに隠された手がかりを探しながら
仲間と謎を解いていく体験型ゲーム

謎解きゲームのよいところ

まちの魅力を存分に取り入れることができる

ゲームのストーリーや謎をまちにあわせて作ることが
出来るので、自由に魅力あるスポットや伝えたい
メッセージを取り入れられる。

すでにまちにあるものだけで作ることができる

謎を解くための手がかりは、既にまちに設置されている
看板のやモノなどから作ることができるので、新たに
何かを設置したり、管理する必要がない。

いつでも参加してもらうことができる

誘導にそってゲームを進めるため、参加者はいつはじめるか
を自由に決めることができ、参加者の集中を防げる。

3. きたまち×リアル謎解きゲームの提案

ゲームの
タイトル

きたまち×リアル謎解きゲーム 悠久の幻影記憶 モザイクメモリーズ

きたまちの歴史的スポットを巡りながら、
まちの特徴である「歴史のモザイク」を感じることが出来るゲーム

ゲームの
ストーリー

怪盗がお宝「モザイクメモリーズ」というものがあると知って、きたまちにやってきて探し始めているようだが、きたまちの住民たちは「モザイクメモリーズ」というものが何かわからない。そこで、きたまちの住民からの依頼を受けた参加者は謎を解きながら怪盗を追いかけて、盗もうとしているものを明らかにしようとしたきたまちを歩く。

歴史のモザイク



奈良時代
明治時代

奈良時代
戦国時代

明治時代
江戸時代
飛鳥時代

約2時間半



旧鍋屋交番案内所
でセットを購入！



冊子



ペン



ファイル



謎解き
道具

----- 謎解きセット ￥1500円 -----

1

奈良女子大学周辺エリア
初宮神社・奈良女正門・旧鍋屋交番

鍋屋交番の屋根に
着目した謎も…▶



2

聖武天皇陵周辺エリア
聖武天皇陵・多間城跡・多門町

◀多間城跡に設置し
ている看板を読んで
解く謎も…



3

旧奈良監獄周辺エリア
旧奈良監獄・植村牧場・石橋・般若寺

奈良晒を詠んだ漢詩
が登場する謎も…▶

寧楽百首
古今名高寧樂布
衆人競依歩炎陽
請看般若寺辺北
恰似漫雪後岡



最後の謎を解いて、怪盗が盗もうとした「モザイクメモリーズ」が何かを
突きとめ、きたまち転害門観光案内所で報告すると参加賞をゲット！

4. 今後の展望

- ・実際に開催するにあたっては、謎解き冊子や広告ポスターなどのデザインが重要になるので、謎解きセットの販売による収入を考えながら、デザイナーへの依頼も検討する必要がある。
- ・多くの人に参加してもらうために、きたまちでこのゲームが開催されていることを広めるSNSや駅掲示ポスター・広告などを通した宣伝をどのようにするか検討する必要がある。

1. 移住に着目する理由：なぜ観光客ではなく移住者？

- 住み、働き、納税することで地域に長期的な貢献を
- 人口減少と高齢化対策
- 空き地、空き家問題にアプローチ
- 地域に新しい居場所を（地域コミュニティの活性化）
- 観光業と比べて持続可能かつ安定した町への貢献

行政に移住の取り組みを聞いたところ・・・
きたまちのポテンシャルはあるのに、実績がない



私たちの提案で移住という前例を作りたい！
空き家や農地を本来の使い方ですぐ再興できるのも『移住者』

2. 提案：べじ・ぷ〜ぷサイクル



つくる

家庭で出たゴミや牛のフンをコンポストを利用し堆肥化

育てる

作った堆肥と空いた土地を利用して野菜を栽培

分ける

収穫した作物をべじ・ぷ〜ぷ主催のフリーマーケットで頒布

3. つくる

生ごみコンポストとは？

微生物の働きで有機物を分解させて作った堆肥のこと

コンポストのメリット

【個人で実感できるメリット】

- ゴミが減る
- 堆肥を自分で使える

【環境・社会へのメリット】

- ごみ焼却費用や化学肥料の使用料を削減できる
- CO2 排出量の削減

植村牧場への取材

● 障がい者雇用

● 牛の糞を堆肥にする流れ

- ① 植村牧場で出た牛の糞
- ② おがくずと混ぜて乾燥
- ③ 堆肥として農家へ配達
- ④ 貰った野菜は牛のエサに



4. 育てる

コミュニティガーデンと市民農園の提案

コミュニティガーデンとは？

地域住民が主体となり空き地を利用し、野菜などを育てること

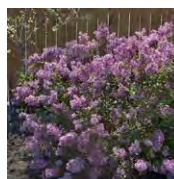
例) 神戸市「平野コブ農園」

- 2021 年に 4 月に開設
- 平野展望公園は利用者が少ない公園
→ 農園として活用することになった



辰己トウシミ屋（農家）への取材

- 作った野菜は旬の駅や奈良ホテルなどに卸している
- ミニサイズの野菜も作っている
- 鹿による農作物の被害



畑の淵に姫ライラックの植栽を提案

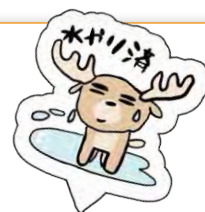
- ・ 匂いによる鹿避け効果
- ・ 景観の保全
- ・ 低コストで長持ち

➡ 交流の場 + 空き地対策、高齢者の健康、教育にも効果が期待される

コミュニティガーデンでは直接会わない利用者とのコミュニケーションが大切



刺して使えるピックを配置
コミュニケーションの円滑化を図る



4. 分ける、活用

フリーマーケット

- 収穫した野菜を販売
- コミュニティーガーデンを知ってもらうきっかけ

学生の体験学習

- 市民農園の一部を利用する
- 地域の子どもたちとの交流



カフェ

田舎料理 畔 Hotori への取材

- 家庭菜園の野菜（現在は一部）を使用し料理提供
- 第二の人生としてお店を始めた
- 食べて、喋る場を心がけている



交流イベント

- BBQ
- 収穫イベント

表彰

最優秀賞

見つけて、伝えて、笑顔いっぱい! 「ならきたまち★たんけんすごろく」
きたまち探検隊 (奈良学園大学)

奈良市賞

「歴史のモザイク」をめぐるきたまち謎解きゲーム
奈良教育大学しぶたにゼミ (奈良教育大学)

鼓阪地区自治連合会賞

きたまちの伝統行事を未来につなぐ新たな仕組みづくり
畿央大学A班 (畿央大学)

佐保地区自治連合会賞

きたまちにおける空き地のポテンシャルを考える
あきち いとぐち きたまち (奈良県立大学)

なべかつ賞

奈良きたまちの魅力認知度アップ～新しい地域資源の活用と情報発信～
チームやすまる君 (帝塚山大学)

てんかつ賞

きたまちからならにのこしいを
畿央大学B班 (畿央大学)

きたまち Consent 賞

本でつなぐきたまちの子育て「くるくるとしよカーがきたまちを回ります」
くるくるとしよカー応援隊 (同志社女子大学)

自治会賞

べじ・ぷ～ぷサイクル
ぷぷファーム (同志社女子大学)

きたまち賞

歴史と出会うロゲイニング in きたまち
OUE n ならきた (大阪経済大学)





交流会



審査・総評

全てのプレゼンテーション終了後、
以下の4名の審査員により

先駆性

先進的でオリジナリティのある取組

活用性

地元還元度や地域実践性が高い

調査分析力

地元の実情を踏まえている

説得力

プレゼンテーションのわかりやすさ

などの観点から厳正な審査を行いました。



各審査員からの講評

今年も、学生の皆さんがそれぞれの学びと情熱を込めた発表で、充実した一日となりました。ご指導の先生がた、奈良きたまちの皆さん、そして事務局の皆さんの努力に、心から敬意を表します。

今回の発表では、実現性の高い提案や既存制度に則した企画が多く見られました。現実社会への接続を意識した姿勢は、地域を対象にした教育・研究が着実に深化している証です。その一方で、行政メニューの活用事例、他地域の成功例の援用事例も増えてきました。もちろん参考とすること自体は大切ですが、奈良きたまちは歴史的景観や文化的資源、そしてここで暮らす人々の生活が織りなす独自の魅力をもつ場所です。だからこそ、この土地に根差した独創的な発想、学生らしい発想をさらに期待したいと思います。

発表の中には、きたまちを丹念に歩いて再発見した独自の魅力が組み込まれた提案など、地域に深く踏み込んだものもあり、大変心強く思いました。個人的な思いですが、そのような案の中で、特に実現性が高く、地域にすぐ役立つものについては、実際に試みの場を設けることでいいのでしょうか、可能なことから良いので。学生の真摯な努力が形となり、地域に還元される機会を作ることは、このフォーラムの大きな成果にもなるでしょう。

本フォーラムは、単なる競い合いではなく、学生さんと地域とが交わり、新しい価値を共に生み出す場です。フォーラムの経験がさらなる挑戦を後押しすることを願っています。

大阪市立住まいのミュージアム（大阪くらしの今昔館）館長

奈良女子大学・京都大学名誉教授

審査員長 増井正哉





インターカレッジフォーラムも 5 年目を迎え、地域が直面している課題も概ね集約されてきた様に思われます。昨年までは買い物難民の解消や、街の活性化の提案が多かったが今回は文化財や伝統行事等歴史に着目した提案が多く、街を実際に歩き対象物を確認し写真を撮ったり、指定された対象物を探検しクイズを解くなどゲーム感覚で歴史を学ぶ提案は新しい手法で、又一方で先輩が提案していた「かるた」の延長で「すごろく」で歴史を学ぶという提案も好印象を受けていました。今直面している伝統行事の継承については「氏子」「講員」の減少地域住民の無関心について「氏」「講」のチラシを作成し、その重要性を再確認する提案で大変参考になりました。

岐阜地区自治連合会副会長 有山 行基

今回は審査員として初めて参加し、どんな発想や提案に出会えるのか、胸を躍らせて会場に向かいました。発表が始まると、各グループの視点や工夫の違いに驚かされ、次はどんな話が聞けるのかと夢中になりました。学生の皆さんが長い時間をかけ、真剣に調査や研究に取り組まれた熱意にも感動しました。私は特に、提案の実現しやすさと地域への還元度に注目しましたが、地域の活性化や移住促進の難しさ、特に人手や資金など課題は多いものの、行政・地域・学生が力を合わせれば、きっと地域の未来はもっと輝く——そう確信した一日でした。

佐保地区自治連合会副会長 浅川 清仁



一昨年から連続、今年度で 3 回目のインカレ審査員として参加させていただきました。今回も様々な視点から、バラエティーに富んだ多数の提案があり、非常に興味深く聞かせていただきました。今回から審査員がポスターセッションに参加できる時間が設けられたため、初めてポスターセッションにも参加させていただきましたが、(これはプレゼンでの質疑応答でも感じましたが) こちらの質問に対し、自信を持って受け答えしてくれる学生さんもあり、その姿を見たときに非常に頼もしさを感じました。インカレに関わることで、地元住民や各団体の大人たちは気づかされ、インカレを通して学生たちは学び、成長することができる。この取組を皆様と協働しながら継続してまいりたいと思います。

奈良市観光経済部部長 栗山 稔



地域・教員からひとこと（50 音順）

何気ない家並み、小さな公園、掲示板や看板、祠やお地藏さん。町の構成要素に反応するセンサーが敏感になったのでは？色々な話をしながら一緒にきたまちを歩きました。そこからの着眼点、課題解決につながるような提案力に今年も感嘆するばかりでした。気づきのセンサーは皆さんのこれからにきっと役に立つと信じています。

新井 忍（なべかつ・きたまち Consent）

「もっとこんな町になるといいな」という学生のみなさんの思いから生まれた提案の数々をありがとうございました。奈良きたまちへの思いを感じ、毎年胸が熱くなります。インカレも今年度で 5 年目となり、「提案・発表」というゴールの先へと、さらに歩みを進めたグループがでてきた「成長」もうれしい限りです。

倉橋 みどり（きたまち Consent）

今年で 5 年目を迎えたインカレ。なべかつでは、SNS の活用に力を入れはじめたことからなべかつ賞は SNS の提案をいただいた「チームやすまる君」とさせていただきましたが、今年も各大学から多岐にわたる提案をいただきました。次年度以降も市のご支援の下、さらなる発展を祈念しています。

倉本 宏（なべかつ）

今年で 5 年目を迎えたインカレ。なべかつでは、SNS の活用に力を入れはじめたことからなべかつ賞は SNS の提案をいただいた「チームやすまる君」とさせていただきましたが、今年も各大学から多岐にわたる提案をいただきました。次年度以降も市のご支援の下、さらなる発展を祈念しています。

瀬渡 比呂志（なべかつ）

暑い時期に地域を歩き、地域が抱える課題を調査し、その解決に向けた斬新な提案は、地域住民にとっては大変貴重な宝物です。今年は特に魅力を発信する提案や賑わいを創出する提案などワクワク感溢れるものばかりでした。ご提案いただいた提案の実現に向け地域住民もしっかり取り組んで行きたいと思います。ご参加いただいた学生の皆さんや各大学の先生方に心からお礼申し上げます。

山口 育彦（てんかつ）

学生さんと奈良きたまちを巡り、途中色々質問をされ新たな課題も発見され、私自身も勉強になりました。

今年も短期間の間に調べ、学生さんの斬新なアイデア、提案をしていただき感謝しております。提案していただいたことを参考に、奈良きたまちの古き良きところを残しつつ、住みよい街にしたいと思います。

吉田 守（なべかつ）

参加して 4 年目になります。半年弱の集大成である発表会が重要であることはさることながら、調査を通じて様々な方々に出会わせてもらっていることがとても大切だと感じています。学生だけでなく私にとっても、普段の生活ではなかなかお話を聞くことができない多様な職業・年代・価値観の方々。その出会いの機会を与えていただいていることも含め、本当に感謝です。

麻生 美希（同志社女子大学 生活科学部人間生活学科）

本年度、本学は 1 年生を主体とした 2, 4 年生との混交チームで参加するという初の試みでしたが、学生たちの頑張りに引っ張られ、私自身、また新たな視点できたまちの魅力を発見することができました。運営はもちろん、調査においても、地域の方々、奈良市の方々に大変お世話になりました。改めて深く御礼申し上げます。

井原 縁（奈良県立大学 地域創造学部地域創造学科）

地域の方々をはじめ、ご協力ありがとうございました。初参加でしたが、とても良い経験をさせていただきました。学生がきたまちを歩き、まちを感じ、その問題意識をもとに遅くまで議論し、発表資料を作成し、堂々と発表していた姿に成長を感じました。来年度も参加させていただきたいと思います。

白田 利之（大阪経済大学 経済学部経済学科）

インターカレッジフォーラムへの参加は今年で 3 年目となり、先輩が後輩に「奈良きたまち」を伝えたり、提案を発表し合う姿に学びの循環を感じるようになりました。地域資源の教材化は教育学部の強みであり、学生の大きなやりがいにもつながっています。地域の皆様や他大学の先生方の温かいご支援に心より感謝申し上げます。

岡野 聡子（奈良学園大学 人間教育学部人間教育学科）

今年度、初めての参加でした。学年も異なり、時間の制約もある中での取り組みでしたが、少しでも「きたまち」が地域の方々にとって住み続けやすいまちになるよう考える貴重な機会となりました。また、学生自身が地元地域について考えるきっかけにもなり、大変良い経験でした。地域の皆さま、奈良市各課の皆さまには感謝申し上げます。

草川 克子（帝塚山大学 文学部日本文化学科）

奈良教育大学からは初めての参加です。教員養成系大学ですので、「子ども」を意識して、きたまちを舞台にしたリアル謎解きゲームの開発に取り組みました。インカレの取り組みを通して、ゼミ生の成長を感じることができました。このような貴重な機会を体験させていただけたこと、本当に感謝しております。ありがとうございました。

澁谷 友和（奈良教育大学 教育学部社会科教育講座）

初回のまち歩きにとどまらず、実践的な地域活動への参加機会を頂き、心より感謝申し上げます。学生たちは地域との関わりを通じ、強い責任感を持って議論を重ねました。貴重な学びの場を提供してくださった地域の皆様、奈良市の関係者の方々に深く御礼申し上げます。来年度もより良い連携を深めていけることを楽しみにしております。

清水 裕子（畿央大学 健康科学部人間環境デザイン学科）

今年から参加しました。学生による提案を楽しく拝聴するとともに、きたまちの素晴らしさを体験できる貴重な機会であることが伺えました。地域の方々や奈良市の方々をはじめ、調査へのご協力をいただくとともに、みなさまに大変お世話になりました。感謝いたします。

宮川 智子（奈良県立大学 地域創造学部地域創造学科）

謝辞

今年も4月19日のオリエンテーションと街歩きから始まったインカレ。6月14日の中間発表での学生たちの発想と意欲、8月8日の発表会へ向けどう発展させるのか逡巡も垣間見え、発表会が益々楽しみにになりました。

今年で5年目を迎え、参加大学が7大学となり、取組みの視点や内容は、農業や移動図書館、空き地活用、SNSの提案、伝統行事や歴史に着目した提案、双六や謎解きなど多岐にわたりました。力作ぞろいの今年の審査員会是最優秀賞を絞るための時間がオーバーし、地域賞など各賞を決めるために審査会場への呼び込みを待つ私たち地元団体は中々呼び込みがありませんでした。それほどまでに、それぞれ魅力的な提案となっていました。

5年前、大学が授業やゼミで地元団体と協力してきたまちをフィールドに課題を探り解決にむけた提案をする取り組みを行おう、大学側の発案者畿央大学の三井田康記先生と連絡を取り、奈良市と相談しながら始まったインカレ。当初は、インターカレッジコンペティションと銘打ってましたが、昨年からは、大学同士や地元など参加者が交流し発展しあえるような意味合いなども込めインターカレッジフォーラムと名称変更。今年も、地元ではてんかつ、きたまちコンセント、そして、なべかつの多くの会員が協力し、鼓阪と佐保の自治連合会も審査員などで協力、奈良市には種々のとりまとめなどで大きな役割を果たしていただきました。

発表会の後、夕方から始まった交流会。半年前までは何のつながりもなかった学生同士がみんな笑顔で楽しく盛り上がっていました。ここに至るまでの各大学の先生方の努力もひとしおではなかったと思います。交流会での学生たちの笑顔は先生方、市の方々そして地元組織の皆さんの努力のたまもの。次年度以降も学生にとっても地元にとっても有意義な取り組みとして発展することを祈念します。みなさん、今年もありがとうございました。

最後に、昨年末まで元気に活躍されていたインカレ発案者三井田先生が、今春急逝されました。先生のこれまでの努力に感謝するとともに、今年もこれまで以上に素晴らしい会になりましたと天国の先生に報告したい。



鍋屋連絡所の保存・活用と奈良きたまちのまちづくりを考える会(なべかつ) 瀬渡 比呂志

このたび、第5回目となる「インターカレッジフォーラム in 奈良きたまち」が成功裡に終了し、多くの学びと成果を収めましたことを、心より喜び申し上げます。また、本フォーラムを支えてくださった全ての皆さまに深く感謝申し上げます。

今回、過去最多となる7大学の大学生の皆さまがきたまちを実際に歩き、多様な課題を見つけ出し、独自の視点でその解決方法を発表してくださいました。その意欲的な取組と楽しんで挑戦する姿勢は、新たな視点やアイデアを生み出し、参加者間で豊かな交流を築く大きな力となりました。

更に、大学生の皆さまの発表がより意義深いものとなるよう、きたまちの地域の皆さまが現地見学やヒアリングなどの機会を提供くださるなど、様々な形でご協力くださいました。このような地域の皆さまや大学の先生方のご支援により、大変有意義な発表会が実現できましたことに、心より感謝申し上げます。

発表内容には、実現可能性を強く感じるものがあり、きたまちをより魅力的な場所とするための新しい提案が数多く含まれていました。地域の皆さまの声を聞き、先生方の指導のもとで柔軟な発想を活かした提案は、地域社会にとって重要な価値をもたらすものと感じています。

今回の経験を通じて、地域活性化に興味を持つ大学生の皆さまが今後さらに活躍されることを期待しております。また、地域の皆さまや大学の先生方をはじめとする多くの方々の協力によるこの取組が、参画と協働によるまちづくりのさらなる発展に寄与することを願い、私の謝辞とさせていただきます。



奈良市長 仲川 肇

参加者一覧

○参加学生

大阪経済大学

「OUE n ならきた（おうえんならきた）」 田川晴奈 濱川拓都 山本晃申 多鹿優里 田畑快人

畿央大学

「畿央大学 A 班」 上島結芽 片岡愛良 高山ももな 堂原唯瑚 山本花梨

「畿央大学 B 班」 福田晃杜 藤長真衣 村岸勇飛 藤井岳 寺岡美保

同志社女子大学

「くるくるとしょカー応援隊」 稲田響 北野海月 森萌々美 室田あかね 須藤仁子

「ぷぷファーム」 伊井麻子 岡田真歩 笠原遥 安田璃子

帝塚山大学

「チームやすまる君」 植田有咲 田仲彩華 山口祐輝 林百々花 山根巳侑

奈良学園大学

「きたまち探検隊」 阪本侑亮 矢川幸司郎 中川由愛 蔵根由来 杉原一羽 石井綾菜

奈良教育大学

「奈良教育大学 社会科教育・澁谷研究室」 苫篠一輝 池本翔真 荻野耀介 河合悠真

木津史晴 北島美月 末廣克基 深井瞭

奈良県立大学

「あきち いとぐち きたまち」 内山結月 岡部莓花 川井大輝 桑原むつみ 濱田陽織

藤田麗樹 前田結亜 水野萌恵 宮内江梨子 山澤愛

○事業参加団体

「奈良町・大学間協議会」

大阪経済大学、畿央大学、天理大学社会教育学科、帝塚山大学、同志社女子大学生生活科学部人間生活学科都市計画研究室、

奈良学園大学、奈良教育大学、奈良県立大学、奈良女子大学生生活環境学部住環境学科、

鍋屋連絡所の保存・活用と奈良きたまちのまちづくりを考える会（なべかつ）、

転害門前旧銀行建物活用協議会（てんかつ）、きたまちコンセント、奈良市

発行日

令和 7 年 12 月

発行

奈良町・大学間協議会、奈良市

表紙デザイン

畿央大学 健康科学部人間環境デザイン学科 中井千織

編集

畿央大学 健康科学部人間環境デザイン学科 中井千織、同志社女子大学 生活学部人間生活学科 麻生美希、

畿央大学 健康科学部人間環境デザイン学科 清水裕子、きたまちコンセント 倉橋みどり、

奈良市 観光経済部 奈良町にぎわい室 高洋平

表紙：初宮神社

